

平成２０年度東能勢小学校学校関係者評価

今年度の取り組みについて

前年度の指摘を受けて、年度当初に学校経営の基本方針と重点目標を定めそれをもとに具体策を立てて取り組まれた。プランについては「心づくり」「頭づくり」「体力づくり」「小中連携」に項目を分けている。

心づくり

人権尊重の教育として「仲間と共に育つ豊かな心を育てる」をテーマに掲げ、「いじめ不登校ゼロへの取り組み」「挨拶ができる子どもを育てる」等を重点課題に取り組まれた。例えば毎月一週間**7:50-8:15**に児童会役員及び学級代表、担当教員が校門で旗を立てて「あいさつ運動」を実施した。また、「基本的な生活習慣の確立」を掲げ、食育など生活規律や学習ルールの確立に取り組まれた。これら日常的な取り組みの中で児童・保護者への信頼関係を深めるようにされたい。

頭づくり

前年度に引き続き国語科を中心とした「豊かな読み取り、読解力の向上」をテーマとして大阪教育大学教授を講師に招いて、説明文を中心とする授業研究を行った。また、３年生以上は従来からの算数に加え、国語の分割習熟授業に取り組んだ。

学期ごとの参観授業で児童・保護者・教職員の授業評価も実施され授業改善につなげていく取り組みも継続して取り組まれた。

算数国語ともに児童保護者から高い評価を受けているが、今後も継続して取り組んでほしい。

体力づくり

前年度の体力づくりへの取り組みの充実の指摘を生かしてジョギングタイムや縄跳び朝会などの取り組みをはじめた。これらの新しい体力作りへの取り組みが日常的に充実するようにさらに検討されたい。

小中一貫教育（いきいきスクール）

６年生においては中学校教員とALTによる週あたり２時間の英語活動、週あたり６時間の社会科の授業を昨年に引き続き実施された。さらに、６年生が中学校に行って学習し、中学校の授業やクラブ体験をする機会ももたれた。

この他に年３回の教職員による意見交換もなされた。朝のあいさつ運動も中学校の生徒会とも連絡をとりあって同じ日に実施するようにされた。

保育所・幼稚園との交流

お互いに授業を参観する期間をもうけて協議・交流して連携協力する関係作りに取り組まれた。

これらの取り組みはPTA総会時に重点目標、具体策として説明され、配布された。そして、アンケート配布時に取り組みの進捗状況として公表された。また、日常の取り組みは、学校だより、学校ホームページの中でも積極的に公表され開かれた学校作りに努めている。

こうした学校評価は、P(計画) D(実施) C(評価) A(改善)というサイクルで取り組まれており、これは文部科学省のガイドラインに沿ったものであり、今後も継続した活動が求められる。

今年度もアンケート実施にあたり「学校教育自己診断」に加えて、前年度から実施した「家庭教育

アンケート」が継続してなされた。この中で生活面の課題が見えてくると共に、学校、家庭、地域が連携して取り組むことの大切さを改めて確認することができた。

様々な取り組みがなされたのであるが、「学校教育自己診断」で明らかになった「心づくり」「頭づくり」「体力づくり」「小中連携」にしばり「評価できる点」「課題とする点(要望)」「提言」の３点で述べてみる。

○評価できる点

心づくり

- ① 豊かな心を持った児童の育成を求めて、児童会と教職員が一体となって「あいさつ運動」に取り組む、一人ひとりが心を開きあって接しあう雰囲気をつくろうとしている。
- ② 人権教材を年間指導に位置付けて児童の発達段階に合わせて指導している。
- ③ 児童会活動を充実させ、児童のやる気を引き出している。

頭づくり

- ① 学力の向上と授業改善にむけ国語の授業研究を実施している。
- ② 朝計算、朝読書、音読カードに加えて朝国語を実施するなど、きめ細かな指導がなされている。
- ③ ３年生以上の算数、国語の分割習熟授業に取り組む、一人ひとりに配慮した指導をしている。

体力づくり

- ① ジョギングタイム、縄跳び朝会など体力向上に向けて取り組みを実施している。

小中連携

- ① 中学校教員による指導はシステムとして非常に有効で効果が上がっている。

○課題とする点

心づくり

- ① いじめ防止に向けて真剣に取り組んでいると思うが、日ごろから一人ひとりの児童に目を向けて児童の悩みをつかむ努力をされたい。
- ② いじめについて真剣に取り組みがなされているが、保護者に充分伝えきれていない。

頭づくり

- ① 個々の児童の実態によりそった、よりきめ細かな指導内容、指導方法を実施されたい。

体力づくり

- ① 新たな取り組みの充実に加えて、日常的なとりくみを充実されたい。

小中連携

- ① システムとしては評価できるが、具体的な実施方法をさらに研究されたい。

○提言

- ① 一定の効果が上がっているが、さらに効果を上げるためには、何より学校・保護者・地域が一体になってこそ、児童の健やかな成長を促すことができることを再認識し教育活動に精進してほしい。
- ② 今後も保護者の願いに真摯に向き合い、協力し合って豊かで人間味あふれる児童の育成に努めてほしい。